

課題調査における調査結果の分析及び施策への反映

(令和4年3月現在)

※ 課題調査とは、単年度調査として実施した次の調査項目をいいます。

- ・ 生物多様性への思い (自然保護課) Q23
- ・ 自殺に対する意識 (障害福祉課) Q24～27
- ・ 静岡県の社会資本整備に関する意識 (建設政策課) Q28～30
- ・ 景観に関する意識 (景観まちづくり課) Q31～33
- ・ 循環型社会形成に関する意識 (廃棄物リサイクル課) Q34
- ・ 県民幸福度に関する意識 (総合政策課) Q35～37

■ 生物多様性への思い

<p>調査目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ふじのくに生物多様性地域戦略」の管理指標である「生物多様性」の用語を知っている人の割合は、20%程度で推移しているが、目標値である60%とは大きな開きがある。回答者が、「知っている」ことを内容を理解していることと解釈し、「知っている」と回答しにくい面もある。</li> <li>・ 令和4年度の「ふじのくに生物多様性地域戦略」の中間見直しに向けて、県民の「生物多様性」を大切にしていきたいという思いを醸成し、理解を深めていただくため、本設問を追加し、現在の管理指標に替わる新たな指標として検討する。</li> </ul>
<p>調査結果の分析、意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物多様性を大切にしていきたいと思うかについては、「思う」(40.8%)が最も多く、以下「まあまあ思う」(38.7%)、「わからない」(16.3%)、「あまり思わない」(3.1%)、「思わない」(0.5%)となっている。 「思う」(40.8%)と「まあまあ思う」(38.7%)を合わせた79.5%が、生物多様性を大切にしていきたいと思うと回答し、「あまり思わない」(3.1%)と「思わない」(0.5%)を合わせた3.6%は、生物多様性を大切にしていきたいと思わないと回答している。 約8割の県民が、生物多様性を大切にしていきたいという思いを共有していることが示された。</li> <li>・ 性別、年代別、未既婚別、地域圏別では、大きな差はみられない。子どもの年代別でみると、『未就学児』、『短大・高専・大学・大学院・専門学校生』は、“大切にしていきたいと思う”が全体と比較して高くなっている。 今後、次世代を担う若い世代に対しても生物多様性を大切にしていきたいという思いを醸成していく必要がある。</li> </ul>
<p>今後の施策への反映の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年度の「ふじのくに生物多様性地域戦略」の中間見直しに向けて、現計画の管理指標に変わる新たな指標として活用予定。</li> </ul>

現時点で活用、反映したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度の「ふじのくに生物多様性地域戦略」の中間見直しに向けて、現計画の管理指標に変わる新たな指標として検討する。</li> </ul>
担当課	くらし・環境部 自然保護課

### ■ 自殺に対する意識

調査目的	平成30年3月に策定した「第2次いのち支える“ふじのくに”自殺総合対策行動計画」の推進にあたり、県民意識の現状を把握し、今後の施策における基礎資料とするため。
調査結果の分析、意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>自殺をしたいと考えたことがある人について、性別年代別では、男女ともに20代以下及び30代の割合が高いことから、依然として若年層対策の推進が課題となっている。</li> <li>60代及び70歳以上の高齢者世代は、悩みやストレスがあっても周囲に相談をしたり、助けを求めたりする割合が低いことから、当該世代をはじめとした、様々な世代に応じたゲートキーパーの養成を進める必要がある。</li> <li>県で実施している自殺対策について、「どれも知らない」が29.7%を占めたことから、自殺相談窓口の周知の更なる強化を図ることが課題となっている。</li> <li>今後求められる自殺対策としては、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」「若年層の自殺予防」「地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い」を求める意見が多く、これらの取組の更なる推進が課題となっている。</li> </ul>
今後の施策への反映の方向性	令和4年度に策定する、次期自殺総合対策行動計画の検討資料として活用する。
現時点で活用、反映したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度からは、相談窓口の更なる周知及びSOSのサインへの気付きを目的とした動画を作成し、幅広い世代で利用されているWEBメディア(YouTube・TVer)を活用した情報発信を行う。</li> <li>令和5年4月を始期とする次期計画へ調査結果を盛り込むこととしている。</li> </ul>
担当課	健康福祉部 障害福祉課

■ 静岡県の社会資本整備に関する意識

調査目的	<p>静岡県では、本県の社会資本整備の方向性を示す、「美しい“ふじのくに”インフラビジョン」を平成30年3月に策定した。</p> <p>令和3年度は、計画期間の最終年度となるため、社会情勢の変化を踏まえて改定を進めた。この検討の参考とするため、社会資本整備に関する県民の方の率直な御意見を伺った。</p>
調査結果の分析、意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会資本整備で役に立っていると思うもの」は、2017年度調査と比べ、「地震・津波など大規模災害への備え」や「洪水など、風水害・土砂災害に対する安全性の向上」などが上位となり、防潮堤の整備など自然災害への対策が認知されていることが示された。</li> <li>・「必要だと思う社会資本整備の取組」は、上位が「自然環境の保全」や「技術者等の担い手の確保」と変化はなかったが、「自然環境の保全」は10ポイント増加し、自然環境に配慮する意識が向上していることが示された。</li> <li>・「期待する県の投資」は、上位が「地震・風水害の対策」、「生活道路の整備や誰もが使いやすい施設の整備推進」と変化はなかったが、「自然と共生するための下水道、農地、森林の整備等」が14ポイント増加し、「コンパクトで交流の盛んなまちづくり」を上回り、前項と同様の傾向が示された。</li> </ul>
今後の施策への反映の方向性	<p>「美しい“ふじのくに”インフラビジョン」において、重点的に進める施策として位置付け、着実に取り組んでいく。</p>
現時点で活用、反映したこと	<p>「美しい“ふじのくに”インフラビジョン」において、施策として位置付けた。</p> <p>&lt;施策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・激甚化・頻発化、切迫する自然災害への防災・減災対策の強化</li> <li>・自然との共生と資源の循環利用の推進</li> <li>・誰にもやさしく、快適な生活環境の形成 など</li> </ul>
担当課	<p>交通基盤部 建設政策課</p>

■ 景観に関する意識

調査目的	<p>本県の景観形成における方針と方策を示す「ふじのくに景観形成計画」の計画期間 10 年間の中間年にあたる今年度、これまで 5 年間の取組評価をまとめた中間報告書の策定及び今後 5 年間の行動計画の策定に向けて、県民に本県の景観の現状や景観形成のありかた等について御意見を伺うもの</p>
調査結果の分析、意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あなたの住む地域の景観は 5 年前と比べてどのように変化したと思いますか」に対して、悪くなった、少し悪くなったが 15.8%、非常に美しくなった、少し美しくなったが 16.5%であり、良くなったと感じている人の方が多い（5 年前の調査では「悪くなったと感じている人の方が多かった」）。</li> <li>・悪くなったと思う理由は、「田畑が荒れた」「廃屋が増えた」「自然の緑が少なくなった」が多く、この傾向は 5 年前の調査を同じであった。</li> <li>・「あなたの住む地域の美しい景観を創り・守り・育てていくために、あなたはどのような協力ならしてもいいと思いますか」に対して、「自身が管理・所有する建物や庭などの外観をきれいに保つ」が 63.3%、次ぐ高い割合が「行政が規制強化することを受け入れる」が 14.8%であり、ルールがあれば受け入れていただける土壌ができてきたことが分かった（5 年前より 5.5%増加）。</li> </ul>
今後の施策への反映の方向性	<p>ふじのくに景観形成計画行動計画の取組展開において、県民への意識醸成を目的とした普及啓発の参考とする。</p>
現時点で活用、反映したこと	<p>ふじのくに景観形成計画の中間報告書の策定に当たり、外部評価をいただく第三者の有識者等で構成される「静岡県景観懇話会景観施策向上・評価専門部会」において、景観に対する県民の意識を示す資料として紹介した。</p>
担当課	<p>交通基盤部 景観まちづくり課</p>

■ 循環型社会形成に関する意識

調査目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合計画に掲げる指標の進捗を確認する。</li> <li>・ 令和4年度を始期とする第4次静岡県循環型社会形成計画の策定に向けて、ごみやリサイクルに関する県民の考え方を把握し、計画策定に反映する。</li> </ul>
調査結果の分析、意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごみ削減やリサイクルのために行っている割合が最も高かったものは「買い物袋（マイバッグ）を持参する（レジ袋をもらわない）」の90.5%であり、次いで「市町のごみ分別のルールを守る」の76.6%、「詰め替え製品を使う」の64.4%と続いた。</li> <li>・ 「簡易包装に取り組む店を利用する」（5.4%）、「使い捨て製品（一度きりで使い捨てる飲食の容器）は使わない」（9.2%）、「生ごみを堆肥にする」（9.4%）については、行っている割合が1割に満たないことが示された。</li> </ul>
今後の施策への反映の方向性	<p>ごみ削減やリサイクルに関する情報発信や啓発活動の内容を見直すための資料として活用する。</p>
現時点で活用、反映したこと	<p>第4次静岡県循環型社会形成計画の策定にあたり参考とした。</p>
担当課	<p>くらし・環境部 廃棄物リサイクル課</p>

■ 県民幸福度に関する意識

調査目的	次期総合計画の策定に係る基礎資料として活用するため、県民幸福度を調査する。
調査結果の分析、意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幸福度の平均点は6.5点であり、前回（平成29年度）の6.4点から大きな変化は見られなかった。</li> <li>・ 一方で、コロナ禍で「不幸になった」と思う人は53.2%であり、「楽しみなイベントや外出が減ったから」という理由が85.3%と最も高かった。</li> <li>・ コロナ禍により不幸になったと思う人が半数以上を占めており、本調査結果は、いまだ感染症の収束が見通せず、多くの県民が不安を抱えて生活していることを示している。</li> </ul>
今後の施策への反映の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次期総合計画（静岡県の新ビジョン 後期アクションプラン）では、誰もが幸せを実感できる地域社会を目指し、「県民幸福度の最大化」を目指していく。</li> </ul>
現時点で活用、反映したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次期総合計画（静岡県の新ビジョン 後期アクションプラン）の策定に当たっての基礎資料として活用している。</li> </ul>
担当課	知事直轄組織 政策推進局 総合政策課